

Title	日本のカメラ産業における技術競争の時代
Sub Title	
Author	佐藤勝尚(Satou, Katsunao) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0084">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0084</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 佐藤 勝 尚

主査 関 口 操 教授

副査 古 川 公 成 助教授

所属ゼミナール 古 川 公 成 研

小 野 桂之介 助教授

## 日本のカメラ産業における技術競争の分析

本論文の目的は、日本のカメラ産業における技術競争の実態を明らかにし、さらにカメラメーカーにおける技術開発力と企業業績との間の関連性を解明することにある。

本論文ではカメラにエレクトロニクス技術が本格的に取り入れられたと考えられる昭和46年から昭和54年までの9年間をとり、カメラ部門の売上高上位10社にかんする二次データに基づいて、この疑問を解明している。その結果次のことが判明した。

第1に、カメラがシステム製品であるゆえに日本のカメラ産業における技術競争はカメラ技術分野全体にわたる特許取得競争である。その特許取得状態は10社において特許出願件数の違いが見出され、さらに新技術的性格の強い出願、旧技術の応用的性格の強い出願、これらの二者の中間的性格の出願の違いがあることが明らかとなった。

第2に、日本カメラ産業における技術競争は、リーダーへの追従を行う新製品開発競争であり、この10社間において発売時期、価格の違いのあることをはっきりとさせた。

第3に、昭和46年から昭和55年の9年間において、10社とも特許出願件数の多い露出調節分野の技術でみると、新製品に組み込まれている露出調節機能の数はその分野での累積特許出願件数および新技術的性格の強さに関係があることが明らかとなった。

第4に、カメラ部門全体の売上高はカメラの技術分野全体における累積特許出願件数と高い相関があることが見出され、将来のカメラ産業における技術競争の方向が示された。